

このハザードマップについて

このハザードマップは、大雨などによる洪水や土砂災害が発生する可能性がある危険区域や避難施設についてまとめたものです。事前に、自宅から安全に避難できる場所を確認しておきましょう。災害に備えて、日ごろから洪水や土砂災害への関心をもち、いざというときに冷静に行動できるように、正しい心構えを身につけておくことが大切です。



このマップの見方・使い方

- その1 浸水の危険性を確認**
自宅やその周辺で浸水が想定される範囲や深さ、家屋倒壊等氾濫想定区域をご確認ください。
- その2 土砂災害のおそれがある区域を確認**
自宅やその周辺の急傾斜地崩壊や土石流、地すべり等の災害が発生するおそれがある区域をご確認ください。
- その3 避難先や避難行動に関する情報を確認**
すみやかに避難するために、あらかじめ避難先を決めておきましょう。避難ルートや避難のための事前準備をお立てください。

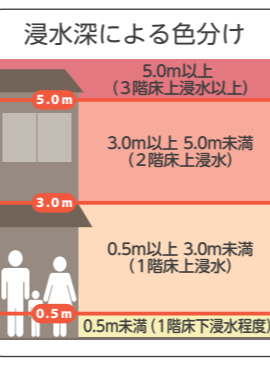
- ① マップに示す範囲がすべて同時に浸水するわけではありません。対象となる複数の河川で洪水が同時に発生し、多くの箇所が堤防が決壊したり、越流した場合を想定しています。
- ② マップに示す範囲以外でも浸水することがあります。局所的な集中豪雨や線状降水帯の発生による雨の降り方に十分注意してください。
- ③ 対象としていない小川や水路でもあふれることがあります。避難先や避難ルートを決めるときに考慮する必要があります。

避難を断行し実行するのはあなた自身です。
このマップを活用して正確な情報を収集し、安全な避難行動や減災行動に取り組んでください。

浸水想定区域・浸水深について

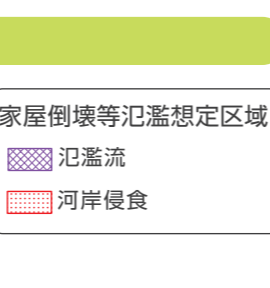
このマップでは、①大井川水系、②瀬戸川水系、③板山川水系の河川を対象に、想定される最大規模の大雨によって増水し、堤防の決壊や越流が発生したときに、浸水するおそれがある範囲とその深さを示しています。

① 大井川水系：大井川・大津谷川・大久保川
② 瀬戸川水系：瀬戸川・朝比奈川・栗梨川・梅田川・内瀬戸川・野田川・ユキ沢・山中川・吐呂川・岡部川・市場川・滝之谷川・滝沢川・谷川川・谷福葉川・青羽根川
③ 板山川水系：板山川・木屋川・東光寺川



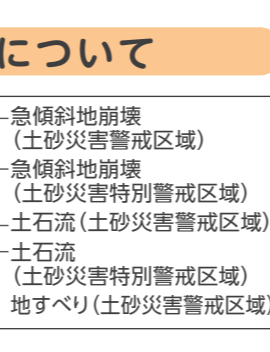
家屋倒壊等氾濫想定区域について

想定される最大規模の大雨によって河川が増水し、堤防の決壊や越流が発生したとき、氾濫流や河岸の侵食によって、家屋の倒壊や流失の被害が想定されます。このような区域を家屋倒壊等氾濫想定区域といい、早期の立退き避難が必要です。



土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域について

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがある区域を土砂災害警戒区域といい、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがある区域を土砂災害特別警戒区域といいます。



非常持出品・備蓄品の準備

- ### 非常持出品
- 持出品の重さは成人男性15kg、成人女性10kg程度が目安です。
- 非常食 (缶詰やアルファ米、シリアルバーなど、火を使わずに食べられるもの)
 - 飲料水
 - ラップ
 - マスク、除菌シート、体温計
 - 携帯ラジオ
 - 懐中電灯・ランタン
 - 予備の電池
 - 携帯用スリッパ
 - 上着、防寒着
 - 下着、靴下
 - 軍手・皮手袋
 - タオル
 - ポリ袋
 - ティッシュ
 - 口拭き用ウェットシート
 - 拭き用ウェットシート
 - 救急セット (絆創膏、包帯、常備薬など)
 - おくすり手帳
 - 生理用品
 - 現金 (紙幣、硬貨)
 - 身分証明書のコピー
 - 貴重品 (通帳、印章など)
 - 充電器、モバイルバッテリー
 - ヘルメット・防災ずきん
 - ホイッスル
- それぞれの状況や症状に合わせて、必要なものを準備してください。
- 赤ちゃん、幼児
 - 液体ミルク
 - ほ乳瓶
 - 離乳食、おやつ
 - 爪切り
 - 紙おむつ
 - おしりふき
 - 母子手帳
 - 高齢者、障害や持病がある人
 - 食べやすい非常食
 - 入れ歯
 - 大人用おむつ
 - 杖
 - 老眼鏡
 - 補聴器
 - 処方薬
 - 障害者手帳

- ### 非常備蓄品
- 食料品や水などは一週間分を目安に備蓄しましょう。
- 食料
 - 飲料水
 - 簡易食器 (割りばし、紙皿、紙コップなど)
 - カセットコンロ、ガスボンベ
 - ドライシャンプー
 - 新聞紙
 - 非常用トイレ
 - トイレットペーパー
 - 工具類 (ロープ、バール、ジャッキ、スコップなど)
- ### ローリングストック
- レトルト食品などの普段から食べ慣れたものを、少し多めに買い置きしておきます。定期的に食べて補充すれば、無理なく備蓄することができます。
-

防災メモ

避難先

指定緊急避難場所
洪水・土砂災害などの危険が切迫した緊急事態において、安全が確保されるまで、一時的に生命を守るために緊急的に避難する施設や場所。

指定避難所
災害の危険がなくなるまで一定期間滞在する施設。または災害によって自宅に被害を受けた方が一時的に生活する施設。

家族・親戚・知人の連絡先

名前	携帯電話番号	通称・通学先名称	通称・通学先の電話番号

災害用伝言ダイヤル(171)

録音の場合 1 被災者の電話番号を市外局番から入力
2 054-□□-□□□□
3 伝言を録音 ※30秒以内

再生の場合 4 0547-□□-□□□□
5 伝言を再生

我が家の危険度をチェック

浸水深

- 5.0m以上
- 3.0m以上 5.0m未満
- 0.5m以上 3.0m未満
- 0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域

- 想定区域内
- 想定区域外

土砂災害警戒区域等

- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

洪水に関する情報

外水氾濫

台風や大雨で河川の水位が上昇し、堤防の高さを越えてあふれ出したり、激しい流れにより堤防が決壊して水が流れ込みます。

内水氾濫

台風や大雨で河川の水位が上昇し、降った雨水を河川へ排水しきれなくなると、下水道や側溝などから水があふれ出します。

洪水予報及び水位到達情報の発表基準となる河川水位

河川水位	河川名	観測所名						
		神座 (恵田市)	梶原 (恵田市)	勝勝橋	横内橋	八幡橋	新道橋 (焼津市)	板橋山 (恵田市)
氾濫危険水位	洪水によって家屋が浸水するなど、重大な被害が発生する可能性が高い水位。避難指示発令の目安となる水位。	3.20m	3.30m	2.60m	3.40m	3.96m	2.92m	2.24m
避難判断水位	洪水による災害の発生を特に警戒すべき水位。高齢者等避難発令の目安となる水位。	2.60m	2.70m	2.25m	2.80m	3.40m	2.40m	2.06m
氾濫注意水位	洪水による災害の発生を警戒すべき水位。水防団の出動の目安となる水位。	2.00m	1.70m	2.00m	2.50m	3.00m	2.10m	1.79m
水防団待機水位	水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位。	0.90m	1.30m	1.50m	1.80m	2.70m	1.30m	1.10m
通常水位	河川敷							

土砂災害に関する情報

土砂災害には「急傾斜地崩壊(がけ崩れ)」「土石流」「地すべり」の3つの種類があり、大雨や地震などにより発生します。

急傾斜地崩壊(がけ崩れ): 大雨などで、地面にしみ込んだ雨水により、急な斜面の土砂が崩れ落ちるのが「急傾斜地崩壊(がけ崩れ)」です。

土石流: 谷底の土砂や山腹から崩れた土砂が水と一体となり、谷を一気に流れ下るのが「土石流」です。山津波とも呼ばれています。

地すべり: 山すそや丘陵地などの斜面などで、地中のすべりやすい地層を境に、地面がそっくり動き出すのが「地すべり」です。

前兆現象

- 急傾斜地崩壊(がけ崩れ): げけが斜面にひび割れができる, げけが斜面から急に水が湧き出す
- 土石流: 山鳴りがする, 川が濁ったり、流木が流れる, 雨続きなのに川の水位が下がる
- 地すべり: 斜面にひび割れができる, げけが斜面から水が湧き出す, 沢や井戸の水が濁る

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)とは

- 土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。
- 危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)とは

- 土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。
- 特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。

警戒レベルと避難行動

警戒レベルと住民がとるべき行動

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報(市が発令)
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保	緊急安全確保
4	災害のおそれが高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など	高齢者等避難
2	気象状況悪化	避難行動を確認(避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど)	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	

市からの避難情報に注意し、避難情報が出ていなくても身の危険を感じたら自主的に避難してください。

状況に応じてとるべき避難行動

大雨

自宅やその周辺に土砂災害(特別)警戒区域がありますか?

自宅は家屋倒壊等氾濫想定区域内にありますか?

自宅やその周辺に浸水想定区域がありますか?

避難の必要性なし: 想定外の事態に備えて注意してください。ただし、不安な方は、安全な場所に自主避難してください。

避難(水平避難)の必要性あり: 市からの避難情報により避難行動をしてください。また、避難情報が発令されていなくても、危険を感じたら早めの避難行動をとりましょう。

避難(垂直避難)の必要性あり: 市からの避難情報により避難行動をしてください。また、避難情報が発令されていなくても、危険を感じたら早めの避難行動をとりましょう。

避難(水平避難)の必要性あり: 市からの避難情報により避難行動をしてください。また、避難情報が発令されていなくても、危険を感じたら早めの避難行動をとりましょう。

日頃からの備え

気象情報・防災情報を確認しましょう

日頃からテレビやラジオ、インターネットなどで気象情報や防災情報を確認して、気象の変化に注意する習慣を身につけておきましょう。

「マイ・タイムライン」を活用しましょう

「マイ・タイムライン」とは、これから起こるかもしれない災害に備えるための「自分自身の防災行動計画」のことです。土砂災害版、洪水災害版の「わが家のマイ・タイムラインシート」を活用して、「自宅の水害リスク」、「防災情報や避難情報」、「避難の方法やタイミング」、「避難場所」をあらかじめ整理しておき、災害に備えましょう。

デジタル版マイ・タイムライン

市LINE公式アカウントから「デジタル版マイ・タイムライン」が作成・確認できます。

右記QRコードを読み込んで、市LINE公式アカウントを友だち登録してください。

避難行動要支援者登録台帳に登録しましょう

市では、避難行動要支援者の避難を支援するため、家族など世帯の状況がわかる防災世帯台帳とあわせて、避難行動要支援者の登録台帳を整備しています。災害時の避難に支援が必要な方は、避難行動要支援者登録台帳に登録しましょう。

自宅の安全対策

側溝や雨水ますの清掃をしましょう
側溝や雨水ますが詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。側溝や雨水ますの上には物を置かないようにして、こまめな清掃を心がけましょう。

浸水への事前対策
簡易水のうを活用して家屋への浸水被害を軽減することができます。また、簡易水のうをトイレや風呂場、洗濯機の排水口の上に置いておくと、下水の逆流を防ぐことができます。

簡易水のうの作り方
45L程度のゴミ袋を2枚に重ね、持ち運べる重さの水を入れ口をしっかりと縛る。

段ボールで性能アップ
段ボール箱に入れると強度が増して持ち運びにも便利です。

下水の逆流を防ぐ
排水口の上に置くことで、下水の逆流を防ぐのに有効。

強風への事前対策
強風に備えて事前に対策しておきましょう。

ベランダの物干しざおや鉢植えを片付ける

TVアンテナ、トタンや瓦など、屋根に不具合があれば修理しておく

窓ガラスの飛散防止のために、雨戸を閉める。ガラスに養生テープを張る。厚手のカーテンを巻くなど

自転車や鉢植え、屋外看板などを取り込んでおく

避難時の注意点

正確な情報収集で最初の行動を

天気予報や洪水の情報に注意し、避難情報が出ていなくても危険を感じたら自分で判断して早めに行動しましょう。特に夜は危険が増すため、できるだけ明るいうちに避難しましょう。

電気が止まると、戸締りの確認

避難する前に、電気のブレーカーを落とす、ガスの元栓が閉まっているか確認しましょう。また、戻ってから家族がいる場合は、避難先を書いたメモを玄関などに残しておきましょう。

要配慮者の避難に協力

災害が発生しそうなとき高齢者等の要配慮者は、早めの避難が必要です(警戒レベル3)。近所のお年寄りや病気の人などの避難に協力しましょう。

動きやすい服装で、二人以上で避難

避難するときは、動きやすい服装で、なるべく複数人で行動しましょう。ひもで結んだり手をつないだりして、子どもからは目を離さないようにしましょう。

川やがけなどの近くを通らない

避難先までのルートは、できるだけ川やがけのそばなどの危険な場所を避けるようにしましょう。事前に安全が確保された避難路を確認しておきましょう。

冠水した道はなるべく通らない

浸水がひざ下(50cm)を超えると、安全に歩くことが難しくなります。どうしても移動しなければならない場合は、棒などを使い足元にマンホールや側溝などが無いか地面を確認しながら慎重に進みましょう。

土砂災害から避難する場合の注意点

土砂災害(特別)警戒区域や、土砂災害の危険のある山やがけ、斜面などからすみやかに離れましょう。土石流の場合は、土砂が流れる方向に対して直角に避難しましょう。

車での避難は控える

冠水した道路は、側溝や水路との境目の判断が難しいため大変危険です。また緊急車両の通行を妨げる可能性もあるため、特別な事情がない限り、車での避難は控えましょう。

逃げ遅れたら無理に避難しない

避難先への移動が困難な場合は、無理に避難先へ向かわず、近くの頑丈な建物や自宅の2階以上など、がけや斜面から離れたより安全な部屋に移動しましょう。

指定避難所に行くことだけが避難ではありません

状況を見て判断しましょう

自宅が安全である

- 土砂災害警戒区域外
- 家屋倒壊等氾濫想定区域外
- 居室が想定浸水深より高い

はい 屋内安全確保

自ら確保した避難先がある

- 安全な場所の親戚や知人宅、宿泊施設などに滞在できる

はい 避難先で安全確保

指定緊急避難場所

地区による避難先の指定はないため、近くの安全な避難場所へ避難する。

指定避難所

避難が一定期間にわたる場合に開設